

フッ化物洗口の取組状況

こどものむし歯予防対策を推進しています

南相馬市 健康づくり課 ☎0244-23-3680

1 フッ化物洗口とは

低濃度のフッ化物水溶液を使って、永久歯に生え代わる時期に継続してぶくぶくうがいをすることで、生えて間もないむし歯になりやすい歯に作用し、むし歯を予防します。



フッ化物（フッ素）の効果

- ▶ 歯の表面のエナメル質の強化
- ▶ 再石灰化の促進、抗菌抗酵素作用



2 実施状況

①対象者（希望者）

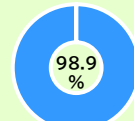
- ▶ 未就学施設 4歳児、5歳児
- ▶ 小学校 1年生～6年生
- ▶ 中学校 1年生

②実施方法

- ▶ 未就学施設 週5回のうがい
- ▶ 小学校 週1回のうがい
- ▶ 中学校 週1回のうがい

令和5年度 フッ化物洗口の 希望状況

小学校では、保護者の
98.9%が希望されて
実施しています。

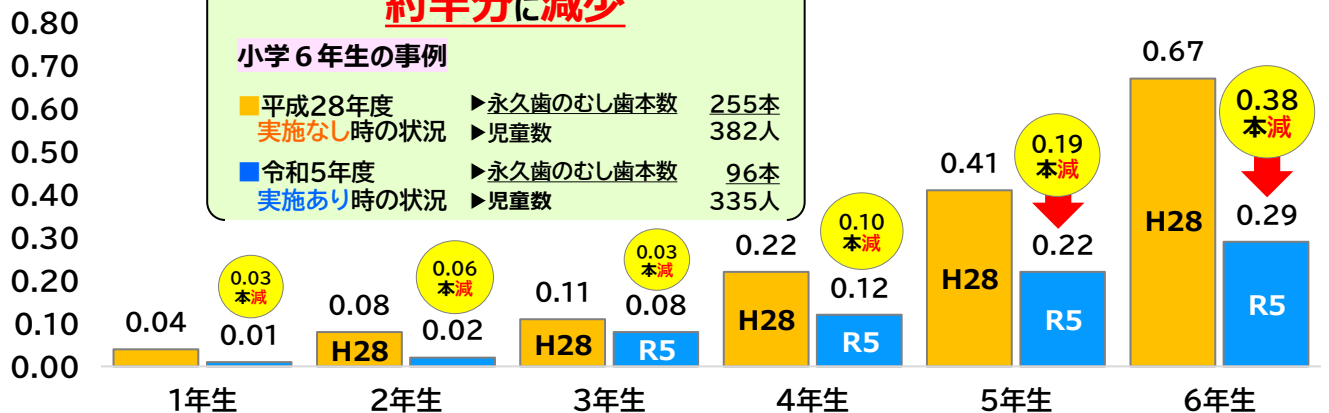


3 永久歯の一人当たりの平均むし歯本数の比較

（令和5年度の小学1年生～6年生は、4歳からフッ化物洗口を継続して実施しています。）

小学生

（単位：本）



4 フッ化物洗口 Q & A

出典：厚生労働省・フッ化物洗口マニュアル（2022版）
福島県フッ化物応用マニュアル（第Ⅱ版）

Q1 フッ化物洗口をしていればむし歯にならないの？

A1 フッ化物洗口だけでは、完全なむし歯予防はできません。

次の3つをプラスして、効果を高めよう！

① フッ素入り歯みがき剤を使った歯みがき

② かかりつけ医での定期歯科健診、フッ化物歯面塗布

③ お菓子とジュースは1日2回まで

Q2 フッ素入りの歯みがき剤を使っているのに、フッ化物洗口はしなくてもいいの？

A2 口の中にとどまるフッ素の量が違うため、併用をおすすめします。

フッ化物洗口では、フッ素入りの歯磨き剤を使うよりも約11～18倍のフッ素の量が口の中にとどまって効果を発揮！

吐き出し後の口の中のフッ化物残留量

- ▶ フッ化物洗口（週1回法） 0.9～1.5mg
- ▶ フッ化物洗口（週5回法） 0.25～0.36mg
- ▶ フッ素配合歯磨き剤（1回当たり） 0.08mg

Q3 対象者は、どうして4歳から中学生までなの？

A3 むし歯は、生えて間もない頃になりやすく、永久歯に生え代わる4歳から中学生の時期に利用することで、高い予防効果を発揮します。

4歳から中学生の期間に実施した人は、成人期のむし歯が少ないことが報告されています。



適切な時期にフッ化物洗口をした人は、大人になっても効果が持続！